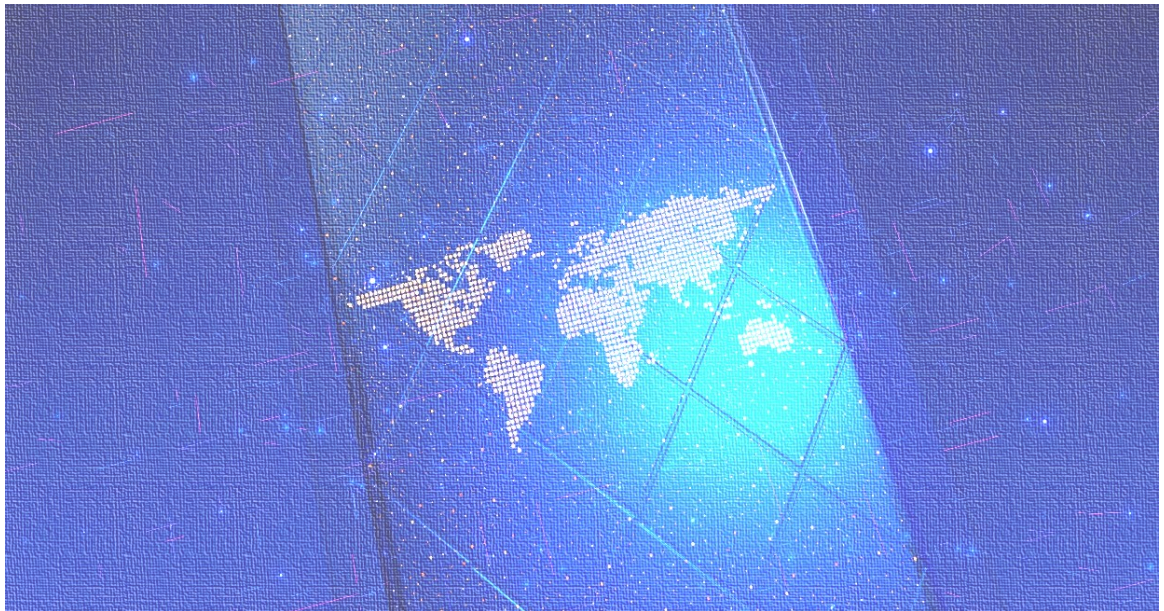


募金趣意書

国連大学を支援するために

= 創立 50 周年を迎える国連大学 =



公益財団法人国連大学協力会

国連大学について

国連大学は1975年に国連総会の決議により創立され、日本国（東京）に本部組織を置くアジア地域唯一の国連機関です。国連のシンクタンクとして、世界12か国に13の研究所を展開しており、SDGs実現のために目覚ましい研究成果を挙げ、地球と人類の持続可能な発展のために提案や警告を発しています。

日本に研究所ができたのは1996年（現在の国連大学サステナビリティ高等研究所）で、世界に先駆けてサステナビリティの重要性を指摘し、世界のサステナビリティ研究活動を牽引する役割を果たしてきました。

国連大学に、修士と博士の学位を授与する大学院プログラムが初めて開始されたのは、2009年に国連大学憲章が改正された時からです。国連大学は大学院プログラムを通じて将来のリーダーを育成することを優先事項としています。13の研究所のうち国連大学サステナビリティ高等研究所を含め、4つの研究所で6つの大学院プログラムを提供し、2023年には300名を超える大学院生が参加し、その半数以上が開発途上国出身で、6割が女性です。さらに多くの専門分野に関する研修機会を提供し、7,000名を超える参加者がスキルセットを強化しています。

国連大学サステナビリティ高等研究所は2010年にいち早く大学院教育を開始しました。大きな特徴としてアジア・アフリカ地域を始めとする開発途上国出身の学生が多数在籍していることが挙げられます。同大学院が輩出した修了生は修士・博士合わせてすでに155人（2025年8月）となり、修了生たちは世界各地の国際機関、あるいは主要機関で活躍しています。

2025年は国連大学が創立されて50周年を迎える記念すべき年にあたります。国連大学は過去50年にわたり、教育、研究および持続的発展のための根拠に基づく解決策の提供というミッションを大いに果たしてきました。

国連大学においては国連大学50周年基金を創設することとしており、本法人としましても国連大学本部のこれらの活動を支援してまいります。

2023年にマルワラ学長が就任以来、47都道府県を精力的に訪問しており、このたび策定された「2025 - 2029 国連大学戦略」においては、「知識 (Knowledge)」、「パートナーシップ (Partnerships)」、「インパクト (Impact、特にグローバル・サウスにおいて)」を三本柱として取り組んでいます。

こうした国連大学の活動資金については、各国の分担金に基づく国連予算の配分は全くなく、当該国の任意の拠出金と民間からの寄付金によって運営されており、さらなる支援を必要としています。

ご寄付のお願い

あまり知られていないことですが、国連大学は国連の機関でありながら、国連の通常予算からの予算配分はまったく受けていません。日本政府や世界中の個人、団体、企業などの民間からの任意の寄付を基に運営されています。国連大学が、現実世界の貧困と紛争をなくし地球規模の環境と開発の問題を解決する活動を充実させるためには、さらなる支援を必要としています。

国連大学協力会(JFUNU)は、国連大学の日本における活動を支援することを主たる目的とし、日本の民間からの国連大学に対する支援窓口として 1985 年に設立された財団です。国連大学本部ビル内に事務所を置き、国連大学の認知度を深める広報活動およびキャンペーン活動を実施し、国連大学(UNU)、国連大学サステイナビリティ高等研究所(UNU-IAS)に対し、大学院生への奨学金助成や国連大学の実施するさまざまなプロジェクトへの支援活動をおこなっています。

2025年は国連大学が創立されて50周年を迎える記念すべき年にあたり、国連大学において国連大学50周年基金の創設をはじめ、大学院教育の充実や研究活動の強化、発展を行うこととしており、国連大学協力会も、従来の支援活動に加え国連大学のこれらの活動を支援してまいります。

皆様からのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

公益財団法人 国連大学協力会

理事長 小宮山 宏

国連大学を広く知ってもらうための主な活動

■ UNU School Visit 開催（国連大学本部ビルの見学ツアー）

国際協力や SDGs に関心のある方を対象に、国連大学の活動をご紹介する国連大学本部ビル見学ツアー-UNU School Visit を実施しています。特に中学生、高等学校生の中で SDGs (Sustainable Development Goals) への関心が高まる中、アジアに唯一の国際機関本部である国連大学を見学したいとの申込が増えています。

見学ツアー内容

☑ 国連大学協力会レクチャー

国連大学と国連大学協力会それぞれの役割について

☑ 国連大学についてレクチャー（Q&A）

国連大学の沿革、研究テーマ、職員について

☑ 国連大学本部ビル施設見学（国際会議場）

実際に2つの会議場に入って国際会議の雰囲気を体感。

☑ 国連大学職員に直接質問

国連にある大学とはどんなところ？
研究とは何をしているの？
国連大学に勤めている人はどのような勉強をしてきたの？
SDGs の達成度合いは？ など。



参加者の声 =事後アンケートより=

誰も取り残さないという国連の理念のようなものが伝わってきました。近そうで遠いような存在だったのでわたしにできる国際貢献から始めて行こうと思います。（高校生）



国連全体から、それぞれ役割、目標など、現在取り組まれている活動なども詳しくご説明頂き、たくさんの質問にもお答え頂きありがとうございました。遠く感じておりました国連が少しではありますが、身近に感じることもできました。（引率者）

世界中で問題視されていることをきちんと研究し動いてくれている方々がいると、直接自分の身で感じる事ができました（高校生）

今回の内容を私たちが周りに伝えていくことで、もっと日本に広まるようにして行けたらと思った（中学生）

国連大学は国連から予算をもらっていないと知って驚いた。たくさんの人々の支えがあって成り立っているということがわかった。自分も協力したいと思った。（高校生）

国連大学のことを全く知りませんでした。今日の見学で世界では異常気象や貧困などいろいろなことがあるんだということをあらためて知りました。（小学生）



■セミナー開催

Junior Fellow Symposium

国連大学(UNU)の修士・博士課程、ポスドク・フェローシップ、短期コース修了生たちは、世界各地の現場で活躍しています。彼らの活動について直接報告を聞く機会と、その活動を広く一般の方々に普及させるためのシンポジウムを開催しています。



茨城県高校生国連グローバルセミナー

国連大学の研究者による講義や、英語でのディスカッションを実施することで、生徒の国際的な視野を広げるとともに、国際社会に貢献しようとする姿勢を育成する目的で茨城県教育委員会との共催、国連大学サステナビリティ高等研究所(UNU-IAS)の協力により開催しています。

セミナーの主な内容

Lecture "Introduction to UNU-IAS"

Lecture "Biodiversity Policy and Sustainable Development"

Group Session - Interactive Session between High School Students and UNU-IAS

事後アンケートより

自分の将来についてじっくり考える機会になれた有意義な時間でした。



国連大学では、UNU-IASの学生から多くの意見を聞くことができ、特別な時間を過ごすことができました。自分の意見を言うのが難しくなかなうまくなかったです。

地球規模で考え、まずはグローバルに行動し、より良い地球を実現したい。

■Newsletterの発行

国連大学サステナビリティ高等研究所(UNU-IAS)の大学院生の生活ぶりや、本法人が大学院生を対象に主催したイベントへの参加の様子などを紹介しています。

■インターネットによる配信 (メールマガジン)

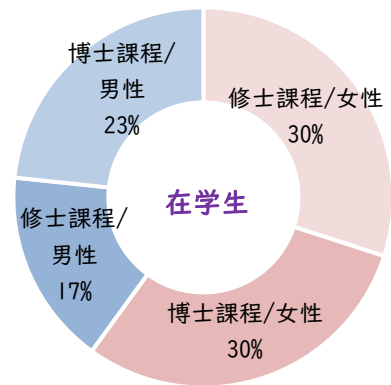
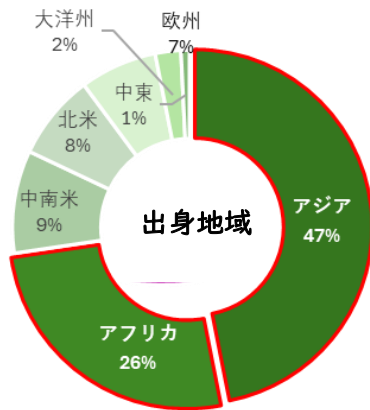
国連大学(UNU)及び国連大学協会(JFUNU)が実施するイベントや各種情報を、メールマガジンとして希望者に配信しています。

配信内容：毎週金曜日に配信。国連大学や国連大学サステナビリティ高等研究所の最新情報、イベントの案内。

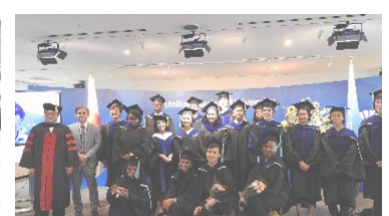
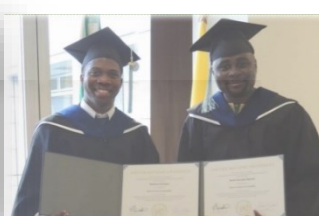
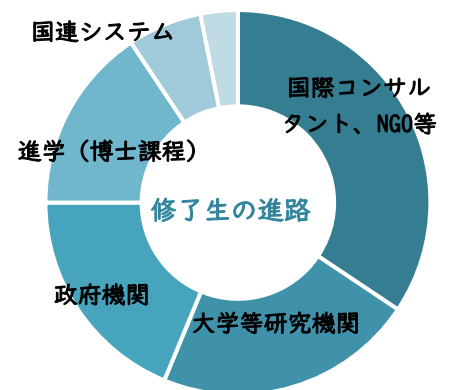
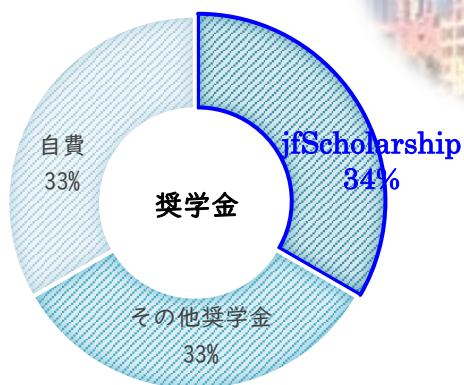
国連大学が行う教育・研究活動の促進のために

■UNU-IAS で学ぶ学生への奨学金支援 =jfScholarship=

国連大学サステナビリティ高等研究所(UNU-IAS)大学院プログラムで勉学に励む学生の多くは発展途上国の出身です。東京での生活費を心配せず、勉強に打ち込めるよう学生の生活費に充てるため、奨学金として毎年支援しています。



国連大学サステナビリティ高等研究所
(UNU-IAS)大学院プログラム



jfScholarship 受給生からの Thank you letter より



この奨学金が、学業生活において財政的な負担を軽減してくれると同時に、自信とモチベーションを高めてくれた。支援してくれる企業が教育の重要性を認識し、学生の将来に投資してくれるということが私を鼓舞しさらに学業に励むことにつながった。

今後、個人的な成功を求めめるだけでなく、支援いただいたことを社会に還元したい。

(2023 博士課程修了 ガーナ出身)



この奨学金がなければ学業を続けることは難しく、命綱のようなものだった。将来、人々や地球のサステナビリティのため国際的な開発機関に参加することを希望しているが、この奨学金がなければずっと遅れていただろう。私の夢を実現する最も重要な支の一つとなった。(2023 博士課程修了ガーナ出身)



毎月の生活費支援がなければ学業に専念することができず、修了できなかった。博士課程の3年間は、私の研究能力を向上し磨きをかける上で重要なものとなった。

修了後は母国に戻り沿岸地域の半乾燥地帯や水の安全確保の課題に関する農業政策に焦点を当てたサステナビリティ科学分野の研究者として新しい人生をスタートさせたい。(2023 博士課程修了 タンザニア出身)



以前から希望していた国連大学に入学でき、この大学院プログラムが私の夢の実現に道を開いてくれた。国連大学、上智大学、東京大学、ICUで多くのことを学び友人とも出会えた。日本国内12県を訪問し、さまざまな文化的違いも体験した。

修了後は、母国や国際的コミュニティーに、私の知識や識見を用いて積極的に貢献したい。(2023 修士課程修了フィリピン出身)



JFUNU からは奨学金だけでなく、企業見学や歌舞伎鑑賞という貴重な機会を作ってもらい、日本文化や企業について、より関心を持つようになった。(2019 修士課程修了 メキシコ出身)



中央政府の奨学金がある国もあるが、母国ザンビアでは人材育成に割く余裕がなく博士課程に奨学金を出すことは極めて難しいのが現状。この奨学金を得ることに感謝している。

修了後は母国の環境省に戻り、国の仕組み作りに関わるなかで、国連大学で学んだことを還元していきたい。奨学金は決して私一人のものでなく、ザンビアの国全体に利をもたらすものである。

(2019 博士課程修了 ザンビア出身)



修了したら博士号を取り、国際機関で自然の保護に関わる仕事、例えば自然保護に関わる国連食糧農業機関(FAO)や途上国開発問題に取り組む国連開発計画(UNDP)などで従事したい。奨学生だけが恩恵を受けたのではなく、長期的に見て私たちが学業を終えて国連大学で学んだ知識や経験を母国に戻って還元することで、より多くの人々が恩恵を受けるのだと思う。(2018 修士課程修了 ジンバブエ出身)

修了生の進路



2021年現在の職業：

Project Officer, Natural Sciences Sector, UNESCO

JFUNU からの奨学金で UNU-IAS 大学院修士課程を修了後、現在 UNESCO で UNDP、UNEP-WCMC と共同で実施する BES-Net イニシアチブのユネスコフォーカルポイント兼プロジェクトリーダーをしています。生物多様性と生態系サービスの科学的評価において、先住民や地域の知識の統合を支援する事業に携わっています。(2015 修士課程修了 ケニア出身)



2017年現在の職業：Research Officer/ Assistant Director

Forest Research Institute (FRI) of Forest Department, Ministry of Natural Resources and Environmental Conservation (MONREC) of Myanmar

JFUNU からの奨学金で UNU-IAS 大学院博士課程を修了後、現在ミャンマーの天然資源・環境保全省で木材の性質と利用のセクションを管理し、2つの研究ステーション、特に自然資源管理と育林研究ステーションの責任者をしています。(2017 博士課程修了 ミャンマー出身)

jfScholarship 支援者の声より

JfScholarship 生の、支援者に対する感謝の気持ち、確固たる将来への決意に躍動感がある。修了して、世界のどこへ行っても、日本のこと、支援者のことを思い出し、周囲の人々に良い影響を与える存在になることを期待している。支援することが国際奉仕の一環として意義あることと思う。

(jfScholarship 賛助会員)

国連大学の研究者が日本を深く理解すること日本人と交流を持つことが重要なことと考え、支援している。今後、日本の若者と国連大学の研究者との交流の機会を増やすことと日本の企業との交流を持つことを期待している。

(jfScholarship 賛助会員 森本鐵鋼産業株式会社)

国連大学及び国連大学協力会の設立趣旨に賛同し、特に世界的リーダーとなる人財育成活動に支援することで、社会的貢献の一助となればという思いから寄付をさせていただいています。

(jfScholarship 賛助会員 日本電子株式会社)

■UNU-IAS で学ぶ学生の教育活動支援

国連大学サステナビリティ高等研究所 UNU-IAS が実施する大学院教育活動の充実を図るため、学生2名分の授業料相当額を支援しています。

■未来のグローバル人材を育てるプログラム(国連大学グローバルセミナー) 支援



国連大学グローバルセミナーは、国連との関係に焦点を合わせた国際問題をテーマに、学識者、国連大学アカデミック・スタッフによる講義と参加者（国内の学部生、大学院生、若い社会人）による討論を重視しており、国連大学サステナビリティ高等研究所 (UNU-IAS) の実施する短期研修の中でも歴史と実績のあるプログラム。修了生の多くが国際機関や国際的な活動に従事していることから、毎年支援しています。

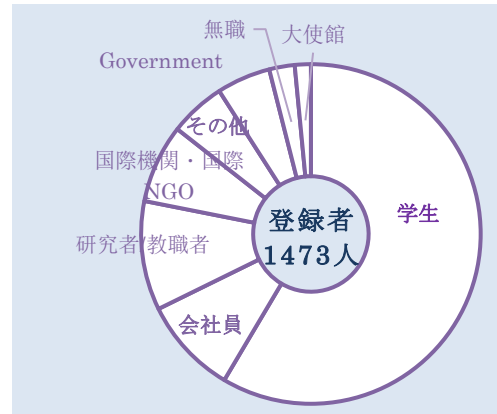
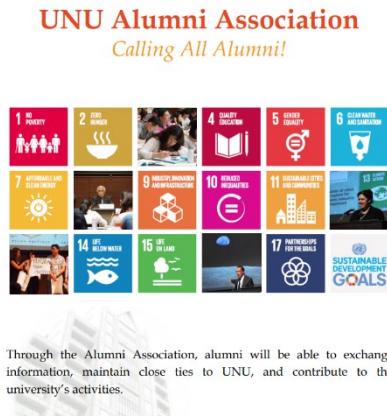
■国連大学本部の教育研究環境整備支援

学生や研究者の研鑽の場となる国連大学本部の施設を維持管理するために、また、国連大学ライブラリーの充実を図るために蔵書購入費を支援します。



■ UNU Alumni Association の運営

国連大学(UNU)の実施する人材育成コースを修了した学生は述べ6,500人を超え、いまでは世界各国で貧困や環境問題など世界規模の課題解決をめざし活躍しています。国連機関、国際機関、国際NGO、大学、各種研究機関など、世界各地で活躍している修了生達が、互いの状況や研究活動について知識や情報を積極的に共有する機会となるよう、私たちは修了生達のネットワーク「UNU Alumni Association」事務局を担っています。



人材育成コース修了生による Junior Fellow Symposium

- ・『『環境と平和』-より包括的なサステナビリティを目指して-』
- ・持続可能な地球社会を目指して—私の SDGs への取組み



UNU Alumni Café

世界各地で活躍する修了生達が、エキスパートとしていまだどんな挑戦を行っているのかを聞き、将来国際機関で仕事をしたい若者との交流の機会になるようなイベントを開催します。

- ・ How to Begin a Career in UN Peacekeeping



広く日本文化を知ってもらうために

国連大学(UNU)本部が日本にあることを強みとして、国連大学(UNU)の諸活動に参加する世界各国の人々に、また国連大学サステナビリティ高等研究所(UNU-IAS)の学生たちに、日本文化への理解を深めてもらう機会を提供しています。

■ 日本文化体験プログラム

一 歌舞伎鑑賞会 & 文楽鑑賞会

日本で初めて暮らす学生たちに日本文化を知ってもらうきっかけとして、歌舞伎鑑賞会と文楽鑑賞会を企画実施しています。



・当時の日本文化が芝居の中ではっきりと観察され、人々が日々どんな経験をしていたかを教えてくれる。(2023年入学 修士課程)

・家族や名誉といった日本の価値観を見ることができた。(2023年入学 修士課程)

一 先端企業・研究所等の見学・体験プログラム

学生たちが、現場の方々から直接お話を伺える見学体験プログラムを企画実施しています。

企業訪問と世界遺産



・リサイクル素材を使用する取り組みが、持続可能性と環境負荷の低減を実現し世界的な気候変動目標に合致するだけでなく、他の業界にとっても模範となるものである。(2023年入学 博士課程)

・彼らの価値観：善の循環と、当時はまだ一般的な考えではなかった持続可能性のために努力してきたことが印象深かった。(2023年入学 博士課程)

・子供に民族衣装（七五三の着物姿）を見ることができて感銘を受けた。(2023年入学 修士課程)

・説明のおかげで仏教の儀式と寺院について理解が深まった。(2023年入学 修士課程)



・近代的で先進的な技術に触れ、SDGs 達成に貢献する目覚ましい技術の進歩について見識を深めた。(2023年入学博士課程)

・電池技術における性能の向上と持続可能性が印象に残った。(2023年入学 修士課程)

広島平和学習

私たちのような外国から来た人々にとっても重要な学びの場です。広島を訪れた時に見たことや感じたことをまとめた文章を、SNSを通じて友人へ発信しています。自身のコミュニティでも、どう広島が原爆の壊滅的状况から復興し、平和の提唱者となったのかを伝えていきたいと思えます。(2016年博士課程 エチオピア出身)



=被爆体験者講話会=

・このような逆境を経験した被爆者が、その回復力と実体験を、平和のために力強い使命として注いでいることに感銘を受けている。

(2022年入学 博士課程)

・ただ歴史の台本を読むよりも、リアルタイムの出来事を目撃者から学ぶほうが感動的だった。(2022年入学 博士課程)



=平和記念資料館=

・とても美しく保存された平和記念資料館には、多くの歴史と悲しい物語がある。(2022年入学 博士課程 男性)

・広島平和記念資料館を訪れて、深い痛みを覚えた。(2023年入学 修士課程 女性)

・広島平和記念資料館の写真やストーリーはとても悲しく、インパクトがあった。(2023年入学 修士課程 女性)



=平和公園=

・原爆慰霊碑はとても美しかった。人々が作ったおり鶴がとても素晴らしかった。(2022年入学博士課程男性)

・原爆で焼け野原になった公園で、子どもたちがのびのびと走り回り、散歩をする人たちを見て、人々が平和な生活を享受できるようになったことに感動している。(2023年入学 修士課程 女性)

・折り紙で鶴をつくるのがとても楽しかった。(2022年入学 博士課程 男性)

学生の体験プログラムを受入れていただいた方々の声より

・学生の方々から想定外の質問をいただき的確にお答えできなかった反省と、逆にそのことが学生さん同士の議論を活発化させた側面もあったようで、その議論のポイントが当社にとって非常に勉強になりました。

・SDGs活動を研究し推進する立場にある方たちの視点が、当社担当者にとって刺激となり、社内では後々まで盛り上がりました。(2023年訪問)

・これまで多くの外国人に被爆体験を話していますが、事前に多くの質問を寄せていただいた方はいませんでした。関心を寄せていただいていることに感動しました。(2023年訪問)



ご寄付をご検討される際には

事業活動に必要な資金に、皆様からの寄付金を充てています。今後さらに活動内容の拡大、充実に図るためにご理解とご賛同をいただき、ご寄付をお寄せいただきますよう心よりお願い申し上げます。皆様からの寄付金は、当法人の「寄付金等取扱規程」に則り有効に活用させていただきます。

= 本法人への寄付は税法に基づく免税措置が講じられます =

当法人は内閣総理大臣より「公益法人」として認定を受けておりますので、寄付金には税制上の優遇措置が適用され、所得税(個人)、法人税(法人)の控除が受けられます。

税額控除に係る証明を取得しておりますので、個人からの寄付については「所得控除(寄附金控除)」あるいは「税額控除(寄附金特別控除)」のいずれかを選択していただくことができます。

■ 寄付金の使途 ※いただいた寄付金の33%を国連大学協会の管理運営に使用いたします。

国連大学協会の活動全体

- ❖ 国連大学サステナビリティ高等研究所(UNU-IAS)で学ぶ学生への奨学金支援
- ❖ UNU-IASで学ぶ学生の教育活動支援
- ❖ 国連大学本部の事業活動支援
- ❖ UNU School Visit開催(国連大学本部ビル見学ツアー)
- ❖ 国連大学50周年基金への支援
- ❖ 国連大学グローバルセミナー開催支援
- ❖ 国連大学ライブラリーの蔵書購入支援
- ❖ 日本文化体験プログラム開催
- ❖ 上記に係る諸経費

特定事業のご指定がない場合は、本法人の助成諮問委員会の諮問、理事会の決定に戻った支援に使わせていただきます。

■ 寄付の種類

賛助会員：本法人の運営に関して、財政的に寄与する法人その他の団体及び個人。

詳しくは、[国連大学支援賛助会員規則](#)をご覧ください。(金額によって特典があります)

会員区分	年会費(一口)	当面、個人からの寄付について以下の通りとします
特別賛助会員	2,000,000円以上	・1,730,000円以上の寄付で 特別賛助会員 とする。 (複数人の個人で構成されたグループでも可能。)
賛助会員A	500,000円以上	・300,000円以上の寄付で 賛助会員A と同等とする。
賛助会員B	100,000円以上	
賛助会員C	10,000円以上	・学生に限り5,000円以上の寄付で 賛助会員C と同等とする。

その他

読み終わった本、身の回りの不要になった物品のリユースからのご寄付です



つながる募金

遺贈

受取人として国連大学協会をご指定いただければ、お志を未来に繋ぎます。

■ご寄付いただいた方への特典

ご寄付金額	特典
法人 200 万円以上 個人 173 万円以上	<ul style="list-style-type: none"> ・国連大学サステナビリティ高等研究所 (UNU-IAS) の学生への奨学金に寄付者の指定する名称を付けることができる。
法人 50 万円以上 個人 30 万円以上	<ul style="list-style-type: none"> ・国連大学サステナビリティ高等研究所 (UNU-IAS) の学生との直接交流。 ・寄付者主催イベントに招待することができる。 ・学生の授業風景を見学することができる。(担当教官の許可必要)
寄付者全員	<ul style="list-style-type: none"> ・国連大学ライブラリーの図書貸出 ・国連大学の入学式・修了式等イベントのご案内 ・国連大学協力会の Web サイトに名前を公表 ・国連大学サステナビリティ高等研究所あるいは国連大学協力会から感謝状贈呈 (ご寄付いただいた期間、金額に応じて)



■募金の目標額

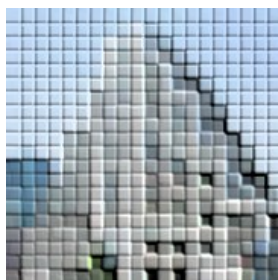
募金目的	国連大学の教育・研究活動を支援すべく、国連大学協力会が取り組むさまざまな事業の資金に充当する
目標額	年間 40,000,000 円
寄付方法と金額	単発寄付 寄付金額任意 継続寄付 法人 寄付金額 10 万円以上 個人 寄付金額 1 万円以上



■ご寄付の振込先

銀行名 三菱UFJ銀行 渋谷支店
口座番号 普通預金3959900
口座名義 公益財団法人国連大学協力会

※恐れ入りますが振込手数料をご負担ください。



銀行名 ゆうちょ銀行
口座番号 00100-3-185914
口座名義 公益財団法人国連大学協力会

※振込手数料負担の払込用紙をご希望の方はご連絡ください。



寄付申込書

寄付申込日 年 月 日

公益財団法人国連大学協力会
理事長 小宮山 宏様

公益財団法人国連大学協力会の活動主旨に賛同し、貴法人が行う事業を支援するため、下記のとおり寄付いたします。

寄付者種別 () 個人 () 法人 () 団体

フリガナ

氏名

法人名/団体名

英語表記

代表者氏名 (法人のみ)

(代表者役職名)

ご担当部署名 (法人のみ)

ご担当者名 (法人のみ)

(お役職名)

住所

〒

電話番号

自宅 会社

携帯

メールアドレス

@

メルマガ配信 希望する ・ 希望しない

寄付金額

金額

円

お振込み予定日

年

月

日

寄付目的

国連大学協力会の事業活動全般を支援するため

寄付情報の公開

寄付者名

可不可

Web サイト・印刷物

法人ロゴ

可不可

法人 HP へのリンク

可不可

事務局使用欄

申込受付日

賛助会員番号



連絡先

公益財団法人国連大学協力会

住所 〒150-8925東京都渋谷区神宮前5-53-70 国連大学本部ビル4階

電話 03-5467-1368 FAX 03-5467-1349

E-mail: jf@unu.edu

URL: <http://www.jfunu.jp/>